

2020年(令和2年)6月17日(水曜日)

肌着にセンサー 園児突然死防ぐ

福井市の社中央第一、第二こども園は本年度、乳幼児突然死症候群（SIDS）を予防するため、センサー付きの肌着を乳幼児が着用することで、午睡時の姿勢や体動を管理できるシステムを導入した。うつぶせ寝を感知するとアラートが鳴る。市内の公立保育園・認定こども園では同様のシステムの導入例はなく、県内でも珍しいという。乳幼児が突然しくなるSIDSは、うつぶせ寝で発症リスクが高まるとされる。保育

福井のこども園導入

うつぶせ時に警告音

園などでは、呼吸と姿勢の確認を0歳児は5分に1回、1〜2歳児は10分に1回するよう国の指針で定められている。4月に本格導入したシステムでは、0、1歳児の計35人がセンサー付き肌着を登園時に着用する。午睡時には姿勢、体動、心拍数、心電波形、呼吸、体温を測定。ポケットの送信機からタブレットにデータが送られ、うつぶせ寝や体調悪化を警告音で知らせる。園児1人ずつの呼吸と姿勢を確認し続ける必要がなくな



午睡時の乳幼児突然死症候群を予防するセンサー付きの肌着を着た園児＝16日、福井市湊4丁目の社中央第一こども園

り、午睡の時間をほかの事務作業に充てることもできるようになったという。システムは一日中稼働させ、午睡時以外も体調と体温を管理する。これまで手作業で行っていた園児の体調記録は自動化された。両園を運営する社会福祉法人やしろ中央会の山田健治理事長は「保育士とITのダブルチェックで子どもを見守ることができ、安全性の向上と事務的負担の軽減が実現できた」と話している。（細川善弘）